

8. 現職教育

1. 研究主題

一人ひとりが主役となって活躍する「加太っ子スタイル」の深化
～加太「地域素材」との協働・共有～

2. 主題設定の理由

1) 研究の流れと継続したねらい

加太小学校が「小規模特認校」指定を受け、本年は3年目となる。しかし児童数の増加を願う中、今年度は複式学級が2学級に増加し、小規模へき地校の姿はより鮮明なものになった。複式学級での学びに対応した学習方法を身に付けた児童の育成を確かなものにしていく必要性も高まり、教員の研修もさらに進めていかなければならない。一昨年より複式授業についての研修を行っていたが、複式授業の難しさは間接指導にある。そこで昨年、複式授業において間接指導を効果的に進めるために、児童が「自分たちで学習を進める」力を高めることの必要性が問われ、これを研究テーマに掲げることになった。そこで他校の先進的な実践を範とし、「自分たちで学習を進める」方法として「加太っ子スタイル」を掲げ、「学びのガイド」や「個別最適な学び」を叶える自由進度学習に視点を置きながら実践を重ねた。そして年度末には各学級の実践を擦り合わせ、より加太小学校の実態に沿う「加太っ子スタイル」にマイナーチェンジを行い、本校独自の2024年度版「加太っ子スタイル」が創られ、今年度はその深化をねらう。

2) 「一人ひとりが主役となって活躍する」とは

昨年度の研究を振り返った際、「加太っ子スタイル」の中でペア学習やグループ学習（仲間学び）の「こ」（「ここってどうなるの?」「ここはね、こうすればいいよ!」）段階の質を高めるにはどうすればいいかが問われることになった。早速今年度、仲間学び段階の質を高めるために必要な「資質・能力」（下記）を全職員で話し合った。

○人間関係（コミュニケーション能力）や信頼関係の醸成。

○相手の考えに矛盾がないか聞き取ること。

○説明する力（まず・次に・最後に など）

○一人で考えること

○休み時間と授業とのけじめ

○語彙力→語彙力のない子への支援

以上出された意見をまとめ、下の3点の重要性を全体確認した。

①仲間学びのとき、友達の考えをよく聞くこと

②友達の意見を聞いて理解すること

③ 友達の意見に関わって自分の考えをもち、さらに説明すること

自由進度学習を意識した課題設定、自力解決、まとめや振り返りなどを記した「加太っ子スタイル」の中で、今年度は特に上記３点を学年の発達段階に合わせて「仲間学び」の段階で実践していくこととした。

ペア学習やグループ学習などの仲間学びを中心に研究を進めるのであれば、「加太っ子スタイル」が子供の自主性や可能性を引き出す、という昨年の主題の表現にはズレができてしまう。なぜなら、自主性や可能性を引き出す「加太っ子スタイル」が児童一人一人の「仲間学び」の力を高めるではなく、「仲間学び」の力を高めることで「加太っ子スタイル」を充実したスタイルに変え、学びを深めていく、という角度からのアプローチとなるからである。その場合、児童一人一人が「聞くこと」「聞いて理解すること」「説明すること」の力を高めると、一人ひとりが活躍する授業となるであろう。つまり「一人ひとりが主役となって活躍する」授業として仲間学びの質を高め、自分たちで学習を進める力を高め、総じて「加太っ子スタイル」を深化させていく。「一人ひとりが主役となって活躍する」とはこの意味である。

3) 加太「地域素材」との協働・共有

同時に「地域学習」も進めていく。これは加太小学校の“使命”ともいうべき視点である。加太小学校は長年にわたり、「地域」と共に「地域」を教材化しながら教育活動を進めてきた。これはへき地校が「学校が地域を育てる」側面と「地域が学校を育てる」側面が共存すると言われる所以である。

そこで今年度も引き続き児童が地域の「ヒト・モノ・コト」（地域素材）を取り入れながら、「地域」に親しみ、「地域」を知り、「地域」と協働・共有する実践を進める。つまり、長年にわたり取り組んできているもの（加太の学び）、児童の学びに直結させてきたもの（教科横断的な学び）、児童の学びを繋いできたもの（主体的・対話的な学び）などに結びつけられるよう、各担任が児童の実態に合わせてマネジメントしていく。

なお各学級ごとに進める地域素材を取り入れた「地域学習」は、教科横断的な視点も盛り込んで「加太ストーリー」にまとめていくことになる。

4) 小規模校の「三特性」を生かして

ここまで述べてきた研究を進め、深めるにあたり、小規模校と呼べる本校は「へき地三特性」を生かした学習指導、引いては学級経営を進めることが大切である。つまりデメリットと取られがちな特性「へき地性」「小規模性」「複式形態」だが、個別化・集団化を工夫することで以下に述べるメリットとすることができる。小規模校ならではの特

性から大きな学習効果をねらうことができることになるのである。

「へき地性」については、少人数学習では個々の児童生徒の到達状況に合わせた学習指導・生活指導のおこないやすいメリットがある。特に SNS の急速な普及やギガスクールの展開により、ICT 環境は都市との差異が明確でなくなっている。ICT を効果的に用いる学習展開において本校の状況をデメリットとしない指導を展開できる。

「小規模性」については学級単位の人数の少ないことを優位な条件としてとらえ、児童生徒一人一人の特性を把握し、それを指導に生かすことができる。また、地域の環境（自然・社会・人間）を生かした体験的な学習を積み上げ、一人ひとりが自然や地域と濃い触れ合いを通して、豊かな感性や郷土愛が培われる。また、総合的な学習の時間や学校行事等での地域と連携し協働した学習により、課題解決力や表現力・コミュニケーションの向上もねらうことができる。地域に根ざした教育の推進を図る観点から、小規模校の特性を理解し、児童生徒一人一人が主役になるとともに、地域の教育力の一層の活用を図ることが重要である。

最後に「複式形態」についてである。複式学級が続くときは、上学年とした学年と下学年とする学年を交互に体験することになり、よきリーダーとよきフォロワーの立場が経験できる。また本校は「縦割りグループ」を組織し、毎日の掃除や大きな行事の際にはこの異年齢集団を単位に活動している。異年齢における学習体験は、日本の教育法では積極的に取り入れられてはいないが、多くのオルタナティブ教育がそうであるように異年齢集団の学習活動・体験活動は人間形成の上でも大切な要素といえる。

これら「三特性」を生かすことで研究主題に向かうことを共有しておきたい。

全僻連令和 6～10 年第 10 次長期 5 か年研究推進計画より一部抜粋

3. 現教運営の方針

上記研究の推進の他、次のことに取り組んでいく。

①学習指導に関する技能向上

→和歌山市客員指導主事の活用

②学習指導及び学級運営に関する知識紹介

→現教通信の発行

4. 校内研修年間計画

		第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	実施予定イベント	
4月	日	3日	10日	17日	24日			
	職会	(春休み) ・年度初め職員会議	年度初め職員会議	・教育計画見直し①	・教育計画見直し② ・川上交流会提案		・委員会活動開始 ・全国学調	
	現教			・研究実践の具体①	・研究実践の具体②			
5月	日	1日	8日	15日	22日	29日		
	職会	憲法記念日	・教育計画最終確認		・水泳指導計画提案		・たてわり活動開始 ・春の遠足(24日)	
	現教			・特別支援教育①	・救急救命法			
6月	日	5日	12日	19日	26日			
	職会		・通知票(評価)	加太ブロック 人権教育研究会 (総会・講演会)			・加太海開き ・社会科見学5年	
	現教	・特別支援教育②			あおぞら公開			
7月	日	3日	10日	17日	24日	31日		
	職会		・夏休みの生活について	・学級事務	(夏休み)		・川上村合宿 ・クラブ活動 ・個人懇談会 ・夏祭り	
	現教		1年生公開※					
8月	日	7日	14日	21日	28日			
	職会	(夏休み)	(夏季特別休暇)	(夏休み)	(夏休み)			
	現教	・地域学習研修						
9月	日	4日	11日	18日	25日			
	職会	・スポーツ祭提案①	・スポーツ祭提案②				・学習参観・懇談会	
	現教	・加太ストーリー交流会 ・全国学調分析	・特別支援教育②	2・3年生公開※				
10月	日	2日	9日	16日	23日	30日		
	職会	避難訓練提案	・加太っ子スポーツ祭②		(市)教科等別研修①		・加太っ子スポーツ祭 ・県学力テスト	
	現教					5・6年生公開		
11月	日	6日	13日	20日	27日			
	職会		・加太の子		(市)教科等別研修②		・学習発表会 ・修学旅行	
	現教		4年生	4年生				
12月	日	4日	11日	18日	25日			
	職会	加太ブロック 人権教育研究会 (分科会)	・学級事務	・加太っ子文化祭提案①(冬休み) ・冬季休業について			・市音楽会 ・クラブ活動	
	現教			・研究収録編纂について				
1月	日	1日	8日	15日	22日	29日		
	職会	(冬休み)	・特別支援教育④	・避難訓練提案	・加太っ子文化祭②			
	現教					幼稚園公開保育		
2月	日	5日	12日	19日	26日			
	職会	・6年生を送る会提案	・卒業式提案①	・教育計画反省①	・教育計画反省②		・加太っ子文化祭	
	現教			・来年度に向けて①	・来年度に向けて②			
3月	日	5日	12日	19日	26日			
	職会		・3月職員会議 ・春休みの生活	・学級事務	(春休み)		・縄跳び大会 ・卒業式	
	現教							

5. 資料

①「加太っ子スタイル」および「学びのガイド」(R5年度末時確認)

※複式学級では、黒板やホワイトボードを前に、児童は円形に机を配置する。

か

- ①これから授業を始めます。礼。
- ②課題とめあてを書く
「まず、課題とめあてを○分で書いてください。」

だ

- ④自力解決（一人学び）
自力解決を始めてください。○分間
ペア学びは ○分間
●目指すレベルを自分で決める →自由進度学習

こ

- ⑤意見を伝え合う（話し合い）
「仲間学びを始めます。」
「話し合いを始めてください。」
→立ち歩き、友達のノートなどを見ながら話し合う。
「～（課題）について発表します。考えはありますか。」
「ほかにありませんか。」
 - ・司会…指名する
 - ・記録…ホワイトボードに書く
 - ・発表者
「私は～と思います。理由は～です。」
「～書いてるやろ？」
「～ということやん？」
「でも、～ということだからさ、」
- ・ミニレッスン
→教師が見方、考え方を途中に入れる。
→大切なことは何かなど、学びの焦点化を図る。
→課題解決に向かって、通常授業の習得場面のような時間にもなる。

学び

- ⑥まとめを書きましょう ふりかえりを書きましょう。
「まとめをします。」
 - ・意見の様子を見て、多数の意見からまとめる
 - ・意見の様子を見て、納得できる考え方を共有する
 - ・本授業でわかったことを出し合う中から見えること

②研究のモデル

